

法医学実習

科目責任者 黒 須 明

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

法医学は法律上問題となる医学的事項について研究する社会医学の一部門である。したがって、社会が複雑化するにつれ、また人権意識が浸透するにつれて、法医学の包括する範囲も急速に拡大しつつあり、単に、司法上・行政上の寄与（損傷の成因、死因、死後経過時間の判定、自他殺または災害死の別の判断、既存疾患と外傷および中毒や医療行為との関係、個人識別、親子鑑定、血痕などの物体検査）のみならず、日常臨床にも深く関与している。

実習では血液型判定（ABO 式, Rh 式, 交差試験）、中毒物質検索と評価（一酸化炭素、アルコールなど）、実症例の剖検写真および組織標本をもとに診断し、死体検案書の作成を行う。また、社会における医師の役割、司法当局との関係を理解する必要がある。そこで、栃木県警察本部等の見学を通して鑑識科学の実際と異状死体取扱いの現場を理解する。

II. 担当教員

教 授	黒 須 明	法医学助教	山 内 忍
特任教授	齋 藤 一 之		
非常勤講師	松 川 岳 久	非常勤講師	長 井 敏 明

III. 一般学習目標

- ・中毒物質の検索法について理解し、その測定方法、原理を習得する。
- ・血液型の意義と検査法を理解し、正確な型判定ができる。
- ・標準的な採血法と血液の正確な取扱い方法を理解する。
- ・講義で学んだ知識をもとに、実症例を理解し、正確な診断を下すことができる。
- ・死体検案書、死亡診断書を正確に作成できる。
- ・鑑識科学の実際を理解し、正確に異状死体取扱いの現状を理解する。

IV. 学修の到達目標

- ・中毒物質検索法を説明でき、簡便な検査が行える。
- ・血液型検査法を理解し、正確に型判定ができる。
- ・実症例を理解し、正確に死体検案書を作成できる。
- ・鑑識科学の実際を理解し、社会における異状死体取扱いの現状が説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))

2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1.2.3.4	6	8	火	4~7	血液型判定実習	全 教 員	4
5.6.7.8		22	火	4~7	薬物分析, 法医病理学, 県警講義を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4
9.10.11.12	6	25	金	4~7	薬物分析, 法医病理学, 県警講義を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
13.14.15.16	7	2	金	4～7	薬物分析, 法医病理学, 県警講義を3グループに分けてローテーション	全 教 員	4

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

- ・ 定期試験（80％）、出席状況および実習態度（20％）。
- ・ 原則として欠席は認めない。
- ・ 栃木県警察見学では、医学生として恥じない態度で敬意をもって臨むこと。正装（ネクタイ、背広、女子はスーツ）が原則であり、服装および態度が劣悪な者（茶髪、ピアス装着、サンダル履きも含む）は出席を認めない。
- ・ 前項が最低限理解しなければならないものであり、当然、その評価には高い水準が要求される。特に検案書作成では、将来医師になって公文書を発行したり、患者や被害者に対する適切な説明を行うための重要な事項が含まれる。したがって語句の誤用、不適切な説明は減点対象である。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

「法医学 改訂第3版」 南山堂

「臨床中毒学」 医学書院

「新訂・死体の視かた」 東京法令出版

「検視ハンドブック」 南山堂

「医事法学・法医学」 メジカルビュー社

「死亡診断書（死体検案書）記入マニュアル」 厚生労働省大臣官房統計部

VIII. 質問への対応方法

適宜質問を受けつける。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	◎
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	◎
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出されたレポートの内容について講評します。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載がない場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

B-2-1), E-5-1), E-5-3), E-9-1), F-2-13), G-3-1), G-3-2)